

第5学年1組 学級活動（1）指導案

指導者 小野澤 りつ

1 議題 「Aさんがもっとうれしくなるような交流会の計画を立てよう」

2 議題について

（1）学級の実態（男子16名 女子21名 計37名）

本学級は、「明るい雰囲気にしてくれる人が多い」ととらえている子どもが多く、よく笑いが起きる学級である。反面、時と場をわきまえずに発言してしまう子どもや、それにつられる子どもがおり、もう少しけじめをつけられるよう日々指導しているところである。

子どもたちと担任の願いが詰まった学級目標は「相手に思いやりの心をもつクラス 進んで学習するクラス みんなで遊ぶ健康なクラス」である。頭文字を取って「あすみ」を合言葉に、日々学校生活を送っている。帰りの会は「今日のあすみ賞」いうコーナーで始まり、「〇〇さんの～という行動が『あすみ』の『あ』だった」というできごとを紹介している。また、金曜日には今週の「あすみMVP」を選んで、みんなで称賛し合う活動をしている。学級目標が子どもたちに身近なものであるよう、日々振り返ることで、「自分たちで決めた自分たちの目標だから」と意識している子どもが増えてきた。学級目標を中心に据え、いろいろな活動に取り組むようにしている。

話し合い活動については、4月から計画委員会を組織して、子ども主体の学級会（あすみ会議）を始めたが、前学年までに話し合いの司会を経験したことがある子どもに限られていて、進行の仕方がわからなかったり、自信がなかったりする子どもが多かった。そこで、計画委員会の仕事は教師が一緒になって進め、徐々に子どもだけで進められる部分を増やしていくように考えた。

シグナルⅡによる調査結果は、以下のようであった。

	設 問	肯 定 的 回 答 率 太字は8割以上		
		5 月	±10.0以上の変化	9 月
1	明るい雰囲気にしてくれる人が多い	84.8		91.2
2	思いやりのある人が多い	63.6	↗+15.8	79.4
3	行事や学級の活動に積極的な学級	72.7		73.5
4	学級の問題は話し合いで解決する	78.8		76.5
5	みんなは担任とよく話す	81.8	↘-11.2	70.6
6	先生の指示がなくても行動できる	51.5	↗+14.2	66.7
7	自由に発言できる雰囲気がある	57.6		58.8
8	リーダーはみんなをまとめている	48.5	↗+22.1	70.6
9	みんなはリーダーに協力的である	51.5	↗+16.1	67.6

10	学級の仕事が一人一人決まっている	81.8		85.3
11	話し合いや活動には班で取り組む	78.8		73.5
12	授業態度はしっかりしている	15.2	↗+36.3	51.5
13	学級での仕事は進んで行く	68.8		76.5
14	あいさつを進んでしている	69.7	↗+12.1	81.8
15	掃除は一生懸命取り組んでいる	57.6	↗+15.9	73.5
16	時間を守っている	39.4	↗+43.0	82.4
17	みんなで使うものは大切に扱っている	63.6	↗+21.7	85.3
18	教室は整頓されている	48.5	↗+25.0	73.5

5月と比べると、肯定的回答率が上がった項目が多い。例えば、あいさつに関しては朝や帰り、廊下ですれ違うときなどのあいさつを担当から率先して行ったり、ものを渡すときに「どうぞ」「ありがとう」のやりとりが習慣になるよう指導したりしてきた。「時間を守る」ことについては、時間を守れている子どもが気づいていない友達に声をかけるよう促すことを繰り返し、徐々に改善してきた。気持ちのよいあいさつをしている子ども、時間を守って友達に教えている子ども、学級のものを進んで整頓している子どもなど、小さなことでも見つけたらほめるようにしている。このような日々の積み重ねで、少しずつ向上してきたのだと考える。

一方で、肯定的回答率が7割を切る項目が4つある。「自由に発言できる雰囲気がない」と感じている子どもが4割おり、理由として次のようなことを挙げている。『『えっ?』『はっ?』と言われたことがあってこわい』、「文句を言われたことがある」というマイナスの経験がある子どもや、実際に自分に経験はなくても「まちがえると何か言われそう、笑われそう」、「賛成してもらえなさそう」という思いを抱いている子どもがいた。また、「決まった子ばかりが話してしまう」、「強く言える人が先に言うと言にくい」という意見もあった。安心して話せるような雰囲気づくり、友達の話聴く姿勢づくりに力を入れ、自分の考えを発言することへの抵抗を取り除いていきたい。

また、本学級には、特別支援を要する子どもが複数名いる。話合いの内容が理解できなかったり、内容は理解できても答え方がわからなかったりするので、個別の支援をしていく必要がある。

高学年となり、委員会活動やクラブ活動、異学年交流活動等で、自分たちのためだけでなく、人のことを考えて計画したり活動したりする場面が増えてきた。下級生が気持ちよく生活したり楽しく活動したりできるようにするには、高学年である自分たちが我慢することも時に必要である。しかしそれだけでなく、今後は、みんなが気持ちよく過ごせてうれしい、下級生が楽しそうに活動している姿を見てうれしい等、人の喜びを自分の喜びにつなげることができるようになってほしいと考える。

(2) 議題選定の理由

本学級は、特別支援学校に通うAさんと居住地校交流を行うことになり、夏休み前に1

回目の交流会を行った。「Aさんは車椅子に乗っている」、「体は自由には動かせない」、「光や音が好き」など、限られた情報をもとに、あすみ会議で会の内容や役割分担を決めて実施した。子どもたちの中では「楽しかった」、「喜んでもらえた」、「また交流会をしたい」等の肯定的な感想が多かったが、「Aさんが全部の内容を楽しめたのか」、「もっと参加できるような工夫が必要だったのではないか」というような意見をもった子どももいた。

そこで、子どもたちの意欲を生かして2回目の交流会を企画する。一部の子どもが感じた「もっとこうすれば・・・」という1回目の振り返りを学級全体で共有し、よりAさんのことを考えた交流会になるようにする。また、「Aさんがうれしくなるためには、自分たちは多少楽しくなくても我慢する」という考えではなく、「Aさんがうれしくなると、自分たちもうれしくなる」という思いで、「Aさんにとっても自分たちにとってもうれしい交流会」を目指してみんなで話し合い、考えたことを実践させていきたいと考え、本議題を選定した。

3 研究主題とのかかわり

部会の研究主題・研究仮説は以下のとおりである。

研究主題

「自発的・自主的に行動し、生きる力を身につけた児童生徒の育成」

一望ましい集団活動を通して、児童生徒の自主的・実践的態度を育成する指導の在り方

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、学級の実態を踏まえ^①、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし^②、活動の過程を具体的に掴ませ^③、活動に取り組ませれば、児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的・実践的態度が育つであろう。
- (2) 話し合い活動において、話し合いの効率化を図る^④とともに、活動目標の共有化を踏まえて^⑤、考えや取り組みの可視化や認め合う活動等^⑥を行っていけば、取り組みへの意欲や達成感が高まり、自主的・実践的態度が育つであろう。

常時活動に関わる手立て

○話し合いのルールの徹底・・・(1)①

シグナルⅡの調査結果からもわかるように、「自由に発言しにくい」と感じている子どもが4割おり、「何か言われるのではないか」という不安、「特定の人が先に言ってしまう」という不満を抱えている子どもがいる。「友達が話しているときに口を挟まない」、「相手の思いを考えながら聴く」などが当たり前になるよう、話し方・聴き方について、繰り返し指導していく。マイナスの発言があった場合には、会の途中であっても担任が入るようにする。また、司会者には、挙手している人が複数いる場合、まだ発言していない人から先に指名するよう指導しておくことで、一部の子どもの発言で会が進行してしまうことのないようにする。

○会議カードの事前準備とコメント・・・(1)②、(2)④⑤⑥

事前に議題等を予告し、考える時間を十分確保したうえでカードに自分の意見を書かせておくことで、自分の考えを整理することができ、会議当日発表しやすくなると考える。また、自信をもって発言できるように、全員のカードに丸をつけたりコメントを書いたりしておく。

○話し合いの進め方や、計画委員会の仕事についてのお助けカード・・・(1)②③、(2)④⑥

提案から話し合い、実践、振り返りまでの流れや、計画委員会の仕事、話し合いの進め方などをお助けカードとして用意することで、活動の流れやめあてをはっきりさせた上で取り組めるようにしていく。カードが司会者の直接的な助けとなるだけでなく、学級全員が流れを把握したうえで話し合いに参加することで、学級全体が司会者に協力し、スムーズな進行につながると考える。

○あすみ会議の積み重ね・・・(1)②③、(2)①

学級会を繰り返し実践することや、学級活動以外の時間でも小グループでの話し合い活動を積極的に取り入れていくことにより、話し合いを自分たちの力で進められるようにしていく。また、計画委員会は輪番で行い、全員が経験できるようにすることで、学級の一員としての意識も高まるであろう。

今回の議題に関わる手立て

○第1回交流会の振り返り・・・(1)②、(2)⑤ ※振り返りの内容の概略は資料5ページ

第1回交流会実施直後に行った振り返りを改めて見返し、学級全体で意見交換をする。一部の子どもが感じた「もっとこうすれば・・・」という気づきを個人内でとどめず学級全体で共有する。その振り返りをもとに「Aさんがもっとうれしくなるような交流会」を計画するにあたり、何をもって「Aさんがうれしい」と判断するのかは、大変難しい。ともすれば自己満足で終わってしまう可能性がある。そこで、第1回交流会の振り返りをもとに、「Aさんはうれしいときどんな様子なのか」等、Aさんについて知りたいことをどうしたら知ることができるかを話し合ったところ、実際には実現できなかったことも含めて、以下の方法が出された。

- ・特別支援学校のAさんの学級に見学に行かせてもらい、自分たちの目で見る。
- ・Aさんの家に行って、家の人に尋ねる。
- ・Aさんの担任の先生に電話で尋ねる。
- ・Aさんの担任の先生に手紙で尋ねる。

「実際に行く」等の意見からも子どもたちの意欲がとても高いことがわかり、一案として検討したが、その中から「手紙で尋ねる」という方法をとることに決めた。

○Aさんの担任の先生からのビデオレター・・・(1)②、(2)⑥

第1回交流会の振り返りをもとに、「Aさんはうれしいときどんな様子なのか」等、

普段の A さんをよく知っているであろう担任の先生に手紙で質問をする。自分たちの投げかけた質問に対して、文字ではなく担任の先生の言葉で返事をいただければと考え、担任の先生にお願いをし、返事をビデオレターとして撮影させていただくようにする。そのビデオを見ることで、目指す会の姿がはっきりし、活動意欲も高まり、より A さんのことを考えた会の実施につながると考える。

○「A さんがうれしくなると、自分たちもうれしくなる」という思いの共有化・・・(2)

⑤

より A さんのことを考えた交流会を行うことが、自分たちの喜びや成長につながり、学級目標に近づくことにもなるという意識で話合いに参加できるよう、提案理由をはっきりさせ、全員で確認するようにする。

以上のような手立てを講じることで、学級への帰属意識や活動での達成感が高まり、自主的・実践的な態度が育つと考える。

4 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5 活動の過程

(1) 活動計画

	日時	活動の主体	活動内容	指導上の留意点
事前	9/17 朝の会	学級全員	第1回交流会の振り返りをする。	よかった点、改善点を話し合い、第2回の計画に生かせるようにする。
	9/20 休み時間	計画委員会	議題や提案理由を確認し、役割分担や話合いのめあて、柱等を決める。	
	9/20 朝の会	学級全員	Aさんについて知りたいことを担任の先生に手紙で質問する。	第2回交流会を計画するうえで知りたいことを尋ねるよう促す。

	10/9 朝の会	学級全員	議題、話合いの柱等を知り、Aさんの担任の先生からのビデオレターを見る。	前もって知らせることで、自分の意見を考える時間を十分に確保する。Aさんがうれしいときの様子を担任の先生に話していただき、事前に撮影させていただく。
	10/17 朝の会	学級全員	自分の意見をあすみ会議カードに書く。	考えを事前に書かせることで、自信をもって発表できるようにする。
	10/18 休み時間	計画委員会	全員の会議カードをもとに意見を短冊に書き出し、話合いの流れをシミュレーションする。	予想される流れを想定させ、本時の話合いを円滑に進行できるようにする。
本時	10/22 学級活動	学級全員	第2回交流会の計画を立てる。	
事後	10/29 朝の会	学級全員	必要な係を決め、役割分担をする。	前時に決めた内容に合った係ができるよう助言する。
	11月中	学級全員	会議で出だされた意見をもとに、係ごとに交流会の準備をする。(作る、練習する等)	適宜進捗状況を確認し、活動意欲が継続できるようにする。
	12/ 学級活動	学級全員	第2回交流会を実施する。	交流会のめあてを確認し、協力して実践できるようにする。
	12/ 朝の会	学級全員	第2回交流会の振り返りをする。	めあての振り返りを行い、友達の頑張りに気づけるようにする。

(2) 本時の活動

①目標

○Aさんがもっとうれしくなるような活動内容を考え、理由とともに進んで発表することができる。

(柱①・②)

○めあてに合った内容を決め、実践への意欲を高めることができる。(柱①)

②展開

活動内容	指導上の留意点	目指す子どもの姿
1 始めの言葉	○司会者に注目するよう促す。 ○司会者が大きな声で自信をもって	

<p>2 あすみ宣言</p> <p>3 計画委員の紹介</p> <p>4 議題の確認</p>	<p>話せるよう励ます。</p> <p>○学級目標を意識するとともに、和やかな雰囲気作りができるよう見守る。</p> <p>○計画委員の子どもには、自分の役割の自覚できるようにする。</p> <p>○計画委員が安心して役割を果たせるよう、周りの子どもには協力的な姿勢で臨むよう促す。</p>	<p>◇学級目標を意識して話合いに臨もうとしている。</p>
--	---	--------------------------------

Aさんがもっとうれしくなるような交流会の計画を立てよう

<p>5 提案理由の確認</p> <p>「Aさんがもっとうれしくなるような会ができれば、自分たちもうれしくなって、『あすみ』により近づくとと思うから。」</p> <p>6 話合いのめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんのことを考えた意見を出そう。 ・第1回交流会の反省を生かそう。 <p>7 話合いの柱の確認</p> <p>①メインの活動を決めよう</p> <p>②他にどんな工夫ができるか案を出そう</p>	<p>○事前に知らせておいた議題・提案理由・めあて・話合いの柱を再確認することで、意識しながら話合いに臨めるようにする。</p> <p>○Aさんはうれしいときにどんな様子かを確認するために、担任の先生からもらったビデオレターの概要をまとめたものを掲示する。</p> <p>○話合いの参考になるよう、第1回交流会の反省をまとめたものを掲示しておく。</p> <p>○事前に全員のカードに丸をつけた</p>	<p>◇議題・提案理由・めあて・話合いの柱をしっかり聞き、確かめている。</p> <p>◇自分の考えを理由とともに進ん</p>
---	---	---

<p>8 話し合い</p> <p>話し合いの柱①</p> <p>メインの活動を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの好きな歌を歌う ・ソーラン節 ・絵本の読み聞かせ ・紙芝居 ・プラネタリウム 等 <p>話し合いの柱②</p> <p>他にどんな工夫ができるか案を出そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を流しながら入場 ・リコーダー演奏 ・活動中もBGMを流す ・暗くして何かを光らせる ・影絵 ・プレゼントを渡す 等 <p>9 決まったことの確認</p> <p>10 先生の話</p> <p>11 終わりの言葉</p> <p>12 振り返り</p>	<p>りコメントを書いたりしておくことで、自信をもって話せるようにする。</p> <p>○発言に合わせて、事前に計画委員で用意した短冊を掲示させ、新たな意見はその場で書き足すよう促す。</p> <p>○話し合いの方向がそれそうになったときには、提案理由や学級目標を再度確認するよう助言する。</p> <p>○話し合いの時間のめやすを提示しておくことで、時間内にまとめられるようにする。</p> <p>○柱②については、案を出し合うことを中心とし、時間があれば決められるところまで決めるよう助言する。</p> <p>○柱②で出された案については、係ごとの準備の際の参考にするということを伝える。</p> <p>○ノート記録係が発表し、必要があれば司会者が補足するよう促す。</p> <p>○今日の話合いでよかったこと、計画委員会の頑張りへのねぎらいの言葉を話す。</p> <p>○実践への意欲がより高まるよう励ます。</p> <p>○自分や友達の頑張りや改善点、次の活動への思いをあすみ会議カードに書くよう促す。</p>	<p>で発表している。</p> <p>◇友達のを考えを自分の意見と比べながら聞いている。</p> <p>◇Aさんにとっても自分たちにとってもうれしくなるような活動内容を決めることができる。</p> <p>◇あすみ会議カードに振り返りを書き、次に生かす点を明らかにしている。</p>
---	---	--